

豊田高等学校の「時事問題」選択生徒が「第9回和歌山県データ利活用コンペティション最終審査会」での成果を教育長に報告します！

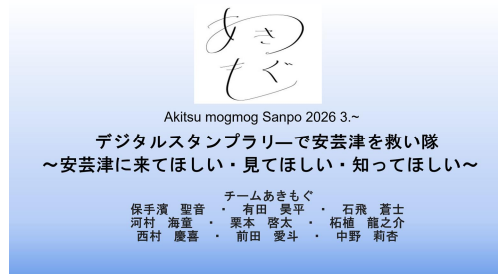
豊田高等学校3年生の生徒が、学校設定科目「時事問題」の授業において、学校のある安芸津町の魅力を広く知ってもらいたいという思いから、少子高齢化の進む町の現状を分析し、安芸津町の魅力を効果的に発信するための企画を考えました。地域の現状と魅力発信の方法をデータで分析し、デジタルスタンプラリーを活用した「季節ごとのスタンプラリー」や、地域イベント「あきもぐ」を提案し、魅力発信のアイデアについて具体的な提案書を作成しました。

提案書を「第9回和歌山県データ利活用コンペティション」に応募した結果、最終審査会へ進み、「NTT 西日本賞」を受賞することができました。

1月8日（木）に生徒が教育長を訪問し、審査会で発表した内容と受賞について報告します。

1 教育長表敬訪問

- (1) 日 時 令和8年1月8日（木）13:30～14:00
(2) 場 所 県庁東館4階 教育長室
(3) 訪問者 豊田高等学校3年「時事問題」選択生徒
ほ て は ま さ と ありた こうへい いしとび そうし
保手濱 聖音、有田 晃平、石飛 蒼士、
かわむら かいどう くりもと けいた つげ りゅうのすけ
河村 海童、栗本 啓太、柘植 龍之介、
にしむら よしき まえだ あいと なかの りあん
西村 慶喜、前田 愛斗、中野 莉杏



<提案書抜粋>



<最終審査会後の受賞の様子>

2 第9回和歌山県データ利活用コンペティションについて

- (1) 開催趣旨 データ利活用の重要性・有用性を発信するとともに、次世代の日本を担うデータサイエンス人材を育成すべく、全国の高校生、大学生等を対象に、行政課題に対するデータを活用した解決アイデアを募集するもの。和歌山県主催。
- (2) 募集期間 令和7年4月1日（火）～10月9日（木）
- (3) 募集テーマ 「デジタル化が進む社会における持続可能な地域づくり」
- (4) 募集部門 高校生部門・大学生部門
- (5) 審査過程 事前審査 → 一次審査 → 最終審査（※）
- ※ 最終審査において最終審査会（12月13日（土）10:00～12:30 和歌山県データ利活用推進センター）を実施。一次審査通過者がプレゼンテーションを行い、学識経験者及び関係行政機関職員が入賞作品を決定する。